



育成センター

こうほう

発行元 板野東部青少年育成センター組合
 板野郡北島町中村字上地23番地1 北島町役場5階
 TEL: 698-3440 FAX: 698-8810
 相談電話: 698-8780
 E-mail: itanotobu-ikusei@mb.pikara.ne.jp

《安全なネットの利用を学び直そう》

育成センターでは今年6月に松茂町・北島町内の小学校5年生、中学校2年生を対象にインターネット利用に関するアンケート調査を実施しました。その調査結果の一部をご覧ください。

Q あなたは、インターネットを利用して、何を一番多くしていますか。

回答	小学校	中学校
①SNS	8.5%	39.5%
②情報の検索	7.1%	2.4%
③ニュースや記事を読む	1.9%	1.0%
④マンガや書籍を読む	1.6%	1.4%
⑤ゲーム	36.8%	18.6%
⑥音楽を聴く	3.6%	7.9%
⑦動画を見る	38.5%	28.9%
⑧写真や動画を投稿する	0.5%	0.0%
⑨その他	1.4%	0.3%

Q あなたが所有している携帯電話は、フィルタリングを利用していますか。

回答	小学校	中学校
①利用している	25.4%	55.9%
②利用していない	24.6%	9.8%
③わからない	50.0%	33.5%

インターネットの利用について、小学校に比べると中学校でのSNSの利用割合は高い傾向にあります。SNS等は便利なコミュニケーションツールである反面、他人への中傷やプライバシーの侵害、ネットいじめ等の危険性があることを把握しておかなくてはなりません。知らない内に自分が被害者や加害者になってしまう可能性があります。

他にも架空の人物を騙ったアカウントとの交流により犯罪被害にあうこともあります。一度ネットに流出した画像は全てを削除・回収することはできません。

フィルタリングは必ず設定するようにしましょう。犯罪被害にあった子どもの約9割がフィルタリングを利用していませんでした。

困った事があれば一人で悩まず、相談するようにしましょう。

《リーダー養成研修会》

リーダー養成研修会は、8月7日(月)北島町役場で開催し、松茂中学校・北島中学校の2年生22人が参加してくれました。

今回は徳島板野警察署の少年補導職員から青少年の健全育成について講話がありました。

放置している自転車に勝手に乗って行ってしまうのは立派な犯罪(窃盗罪)です。ほんの些細なことからも犯罪につながるケースがあります。

インターネットは危険なことはたくさんあり、闇バイトに誘われることもあります。闇バイトは単なるアルバイトではなく歴とした犯罪です。実際に闇バイトを行った人の証言DVDを視聴しました。

中学生は、子どもから大人へ成長していく途中の大切な時期です。身体の大きさもお父さんやお母さんに追いつき、追い越すほどに成長します。しかし、心の成長については、まだ少しずつ大人に近づこうしている段階です。社会人への階段を一步一步のぼるために、少しずつ大人らしい良識を身につけ、社会の一員として自覚を持つ必要があります。

社会のルールを守ることの大切さは知っていると思いますが、大切なのはそれを実行することです。



《非行防止作文》

青少年の健全育成及び非行防止作文について、管内の中学校2年生から募集をしました。選考の結果、次のとおり入賞者が決まりました。

最優秀作品については裏面に掲載しておりますので、ご覧ください。

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 最優秀 | 「感謝の心を大切に生きていきたい」
松茂中学校2年 山丸 奈都 |
| | 「命のバトン」
北島中学校2年 前田 春花 |
| 優 秀 | 「差別やいじめについて」
松茂中学校2年 加藤 弘大 |
| | 「皆と一緒にならない」
松茂中学校2年 後藤 慶士 |
| | 「見えない所での攻撃を許してはいけない」
北島中学校2年 吉成 佑騎 |
| | 「自己肯定感」
北島中学校2年 松永 悠良 |

令和5年度 非行防止作文 最優秀作品

『感謝の心を大切に生きていきたい』

松茂中学校2年 山丸 奈都

私は、食べることが好きです。ご飯を食べない日は一日もありません。でも、食べたくても食べられない人がいます。このことを作文に書こうと思ったのは、ユニセフの「つなぐよ子に」というCMを見たからです。

詳しく調べてみると、チャドでは、2019年時点では、99万人が食糧難、450万人が食料不安に直面しているそうです。また、日本では、20人に1人が飢餓で苦しんでいるとわかりました。それを知った時、「こんなにも栄養が足りず、苦しんでいる子どもがいるんだ」と驚きました。

私は、小学生の時に薬やワクチンが買える、医療が受けられるようにする募金をしたことがあります。その時は、どれだけの人が苦しんでいるのか、医療を必要としているのかも、調べようとしなかったし、友だちが募金する金額を見て、私もそれに合わせてしまいました。今思うと、苦しんでいる人たちのことをもっと考えれば良かったと後悔しています。

また、私の両親は毎年、「NPO法人 朴の会（ほおのかい）」に募金しています。この「朴の会」は、音楽を通して、小児がんの子どもたちやその家族、医療関係の方々のために、生きる力を届ける活動をしています。

初めは、このような会があることを知りませんでした。でも、ピアノで知り合った先生がこの活動を支援していると知って、私も少しでも協力したいと思い、募金を始めました。

私には、東京に行って演奏することや、入院中の子どもたちに会って励ますこともできません。でも、少しでも募金することで、そのお金をコンサートなどに使ってもらえたら、活動に参加することができます。募金活動は、やって終わりではなく、活動を続けていくことが大切だと思いました。

私は、CMを見て、医療だけではなく、飢餓で苦しんでいる人たちに助ける募金もしたいと思いました。調べてみると、募金をすることで、苦しんでいる人たちに栄養治療食や治療用ミルクなどを届けられると知りました。私が普段食べているご飯を、みんなが食べられるのが一番良いと思うけれど、せめて、栄養がある安全な食べ物食べて欲しいと思います。

また、世界には、5歳まで生きられない子どももいるそうです。栄養が足りず、長く生きられないのは、とても辛いことだと思います。そんな子どもたちが大人になれるように、募金をして必要な栄養を届けたいと思います。

CMでは、「1日100円、月々3,000円から」と言っていました。私のお小遣いでは難しいです。きっと、月々3,000円の募金をしている人はなかなかいないと思います。私は、無理をして募金をするのは違うと考えていて、だから自分のできる範囲でいいと思いました。

でも、自分のできることを日頃から意識していないと、何もしないままだと思います。募金があることは知っていても、「誰かがやってくれるから、自分には関係ない」と思って、当たり前の日々を過ごしてしまいます。だから、小学校でしたような募金をしたいです。100円くらいなら自分にもできるし、100円でも、様々なものを必要としている人に届けることができますから。

私は世界の苦しんでいる人たちを知ったからこそ、より日々の食べ物に感謝したいです。

小学生の時、給食を何度も減らしてしまったことがあります。それは、「量が多くて時間がないから」という理由もあったけれど、「友だちが減らしているから」という理由もありました。友だちみんな減らしているのに、自分だけ減らさずに食べたら、「よく食べる」とイメージがつきそうで、減らさずに食べるのが嫌でした。

今思うと、どうして減らしたんだろうと、不思議に思うくらいです。もし、減らした分を誰かが食べないで捨てられてしまいます。せっかく作ってくれた人がいるのに申し訳ないです。だから、今は周りのことは気にせず食べています。そうすると、給食は美味しいし、毎日楽しみになりました。

また、「いただきます」「ごちそうさまでした」も、大切に、一回一回丁寧に言いたいです。肉はもともと牛とか豚で、一生懸命生きていたし、魚は泳いでいました。野菜は、育ててくれた人にも、感謝したいと思いました。そう考えると、人間は、生き物の命を頂いていて、残酷だなあと思うけれど、感謝して生活したいです。

私には、飢餓で苦しんでいる人たちを直接助けることはできないけれど、自分のできることを精いっぱいしたいです。自分のできることを意識しないと、何も変わらないと思います。そして、みんながお腹いっぱい食べられるようになって欲しいです。

『命のバトン』

北島中学校2年 前田 春花

最近、学校の平和学習で「さとうきび畑の唄」という映画を見ました。沖縄戦について描かれたもので、命の尊さや戦争について、改めて考えさせられました。沖縄は、唯一地上戦が行われた場所で、広島と長崎は、世界で初めて原子爆弾が投下された県です。そう考えると日本は戦争と関わりが深い国だといえます。私の家の近くの公園には、戦没者の慰霊碑があります。小さな公園ですが、10人以上の名前が刻まれています。多くの人々の命をうばった戦争は、今、日本にはありません。しかし、世界では昔の日本のように、何の罪もない人々の命が戦争によってうばわれています。その現状も理解した上で、改めて戦争と人権について考えてみました。戦争は老人も青年も幼い子供も関係なく、命をうばいます。また、今の高校生くらいの男子は戦争に動員されました。大学でもっと勉強するはずだった人も、高校生活を楽しく送るはずだった人もすべて招集され、そのうちの多くの人がそんな夢を叶えられなかったという事を知りました。自分の夢をあきらめ、まだ長くいきられるはずの命を国のために、勝利のために捧げて戦うことを命ぜられて兵士になった人々はどう感じたのでしょうか。私は、きっと恐怖を感じていたと思います。しかしその恐怖からにげようとする、非国民と罵られ、自分も家族も居場所を失う時代です。そうすると戦う以外の選択はできなくなります。戦争は人の自由や様々な権利をうばいます。そして、地上戦が行われた沖縄では、敵に捕まるくらいなら自決を、と命じられ、多くの一般人も犠牲になりました。自ら命を断つということは決して、容易なことではないと思います。まだ生きたい、と思う気持ちをおさえて命を断つからです。海に身を投げた人は呼吸ができなくなるまでの時間、想像できないほど苦しみ、自分の手で自分の家族を殺さざるをえなかった人はどれほど辛く、苦しかったでしょう。このように、苦しんで一生を終えた人が多くいたことも、忘れてはならないと思いました。このような、日本で昔おきた、くり返してはならない出来事を忘れないために、広島では原爆ドームをそのままの形で残したり、沖縄では多くの一般人が犠牲になった壕が残されたり、戦争の時代を生き抜いた語り部さんによる公演会などの取り組みが行われています。私は祖父と祖母の父や母が戦争の時代を生き抜いていなければ、生まれてこなかったかもしれせん。私は、たまたま戦争のない時代に生まれて、自由に夢を決め、進路を選べます。今では当たり前のことですが、ほんの80年前はそれが当たり前ではありませんでした。これは、決して忘れてはならない、目をそらしてはならない、日本の歴史です。墓前や慰霊碑の前で祈っても、戦没者の方の苦しみにふれることはできません。しかし、そんな人々がいたことを忘れずに、次の世代に語り継ぐことは、私達にもできます。だから、私は、日本の80年前の出来事から目をそらさず、まっすぐ向き合いたいと思います。そして、私は、戦争の時代を必死に生きて、私までつないでくれた命というバトンを大切に、命ある限り、一生懸命生きていこうと思います。